

2月議会本会議 (3月5日) さはしあこ議員

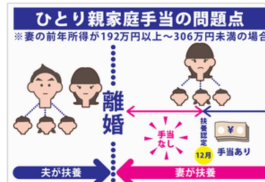
離婚直後が大変だからと、18歳までの支給を3年間に制限したのにひとり親家庭手当を離婚直後に支給しない例が

ひとり親家庭の生活安定と自立促進に寄与するため、国は児童扶養手当、県は遺児手当を支給しています。名古屋市も遺児手当として18歳になるまで支給していましたが、ひとり親になった直後が一番生活が大変なので、初めの3年間に手厚く応援する『名古屋市ひとり親家庭手当』制度に改め、国の児童扶養手当の支給要件に準じて支給しています。

激変緩和策が有効に機能していない

さはし議員は、所得200万円の人の子の離婚した例をパネルを使って説明し、制度の問題点を明らかにし改善を求めました。離婚前は子ども3人は夫が扶養していましたが、離婚後に子どもを扶養することとなっても12月末までは制度上、扶養人数は0人とみなされ、手当

手当の不備を示すパネルで質問する、さはし議員



が支給されず、離婚直後は生活が大変になるのです。

実情にあった算定方法へ改善を

さはし議員は「経済的にも精神的にも一番支えてほしい一年目が、手薄となる。実際の当年の扶養親族数を考慮した算定方法となるよう、制度や運用の改善をすすめてほしい」と追及しました。

津波や地震対策も不十分、石垣の補修も進まないのにいまは必要ない名古屋城天守閣木造再建

先日、『名古屋城の将来を語る市民大討論会』が開かれました。さはし議員は、市民や専門家の意見を聞いた感想を語りながら、名古屋城天守閣の木造再建についての問題点や今後のあり方についてたどりました。

ばく大な建設費以外にも様々な課題

市民からは再建を望む意見のほか、「現在の天守閣の評価をしたうえで考えるべき」「なぜコンクリートで再建したか、当時の名古屋市民の思いをどうするのか」などの様々な声が出されました。有識者などからは、「木造で復元する場合の課題として、火災や地震に対する安全性という問題、急な階段や段差が多く、お年寄りや体の不自由な方のバリアフリーの問題、直径60cm以上の木曽ヒノキは年に数本しか出ない」などの問題が出されました。さらに、ばく大な建設費の問題は、更地に再建するだけで342億円の試算が示され、戦災を受けた天守台の石垣や、はらみのある北面などの積み直しなど、さらに数十億円が必用です。

名勝二之丸庭園などの整備優先を

さはし議員は「名古屋城天守閣の木造復元にかかる様々な課題は容易に解決できるものではない。再建し

てもその後の大改修などの負担は大きい」とただし、「今やることは、名勝二之丸庭園などの整備を優先して進めるべき」と求めました。局長は「必ずしも解決できない課題ではない。姫路城の大改修28億円。隅櫓や石垣、庭園は順次整備したい」と答えました。

子どもたちを悲しませない防災対策を

「天守閣の耐震改修か木造復元か」と今後の方向性をたどりましたが、「市長の熱い思い」というだけでした。さはし議員は、現行の天守閣再建のときは伊勢湾台風があり、「天守閣より堤防を」という子どもたちの声を紹介し、「子どもたちに、天守閣より防波堤がほしかった、と悲しませないようにして下さい」とやみくもに再建に進もうとする市長を戒めました。



枯山水回遊式の名勝二之丸庭園



二之丸東庭園は明治の兵営建築で多くが破壊